

県外派遣報告書

（社）栃木県バスケットボール協会 審判委員会

大会名	令和6年度関東高等学校男子バスケットボール大会	開催地	埼玉県 深谷市・本庄市
報告者名	武井晋平 ・ 倉持雄一 ・ 藤木千仁	派遣期間	5月31日（金）～6月2日（日）

5月30日（木）審判研修会

講師	和嶋陽一 氏 ・ 加納康平 氏 ・ 大野太裕 氏
会場	zoomミーティングルーム

審判会議式次第

(1)挨拶

一般社団法人埼玉県バスケットボール協会 専務理事 名児耶美久 氏
 一般社団法人埼玉県バスケットボール協会 審判部長 眞榮喜工 氏
 関東バスケットボール協会 審判委員長 平原勇次 氏

(2)指名審判員紹介・レクチャー

一般社団法人東京都バスケットボール協会 S級審判員 和嶋陽一 氏
 一般社団法人神奈川県バスケットボール協会 S級審判員 加納康平 氏
 一般社団法人茨城県バスケットボール協会 S級審判員 大野太裕 氏

(3)審判割当確認

(4)連絡事項

- ・試合運営についての確認事項（チーム伝達事項）
- ・各係からの連絡（会場・輸送・宿泊・総務・その他）

(5)その他・質疑応答

【指名審判員・レクチャー】

和嶋陽一 氏

○レフリーとTOの連携について

ルール、メカニクスなど、審判としての勉強も必要であるが、ゲームをともに進めるクルーとして、TOへの気配りや理解も重要。

（TOの立場に立った実践の例）

- ・タイマーが手を挙げるまで試合を再開しない。
- ・3or2をすぐに示してあげる。
- ・TOを急がせずに、落ち着いて処置を進める。ハーフタイムの際のアローをすぐに審判が変えてしまうことのないように。

○ゲームをつくる上で大切なこと

- ・チームのスカウティング
- ・ゲーム中のチャレンジ精神
- ・プレイヤーが感じていること、次どうプレイするかなどのプレイの予測と管理

○コート外の業務

- ・オンザコートだけではなく、コート外での業務（割当作業・指導等）を避けず、取り組んでいくこと。
- 自分自身がしっかり行い、後輩や次の世代に還元し、自分自身の審判活動にも繋げていくことが大切である。

感想：TOとの連携事項など普段意識が薄いことを再認識することができました。TOもゲームを運営していく上での同じクルー仲間だということを忘れずに、よりよくゲームを進めていきたいです。また、気配り、目配りはTOに対してだけではなく、オンザコート、オフザコートに限らずさまざまな場面で生かすことができる大切なことだと感じました。

加納康平 氏

○プライマリーテイクについて

- ・年齢や性別、ライセンスなどは試合中には関係なく、全員が同じ「レフリー」である。
- ・自身のプライマリーエリアをしっかり理解するとともに、クルーの判定を尊重することが重要。
- ・今の自分ができることをコートで発揮すること。

感想：プライマリーが誰なのかをしっかりと把握しないといけないと改めて感じました。自分の目の前の判定を大切にしていこうことや、クルーが何を判定したかを互いに理解し、尊重し合うことが大切だと感じました。

大野太裕 氏

○ゲーム後の反省について

- ・職業柄、人とコミュニケーションをとる機会が多い。それが審判としてコートに立っている際も活かされているという感じる場面もある。誰にでも、自分の仕事の中に審判に活かせることがあると思う。・ゲーム後の反省にて、「ここをこうしておけばよかった、あれはファウルだったかな？」という反省の仕方ではなく、今後のゲームにおいて同じようなケースがあった際は、「次どうすれば良いか、どのような判定をしていくか」など、次に向けたフィードバックをすることが大切である。

・ゲーム中の優先順位

- 1 ゲーム
- 2 クルー
- 3 自分

ゲーム（選手、コーチ、ベンチ）を最優先し、次にクルー、最後に自分のこと。

- ・修正する方法を見つけるための、メンタルコントロールを持つ。
- ・自分でも常にチャレンジすることを忘れない。

6月1日(土)

審判員	武井晋平(栃木)・土屋友由(埼玉)・安西隼(埼玉)	報告者	武井晋平
カード	八千代高校(千葉) vs 八王子学園高校(東京)		
コート	Bコート	主任	加納康平 氏
<p>ゲーム序盤から、点数差が出ているゲームとなりました。ゲームのフローとしては負けている方のチームがどれだけストレスなく試合をスムーズに進められるかがポイントだったと思います。また、ゲームの流れで異質なことが起きたときに、自分が出ていけるかという点も非常に大切だと感じさせられました。</p> <p>コミュニケーションの取り方では、例えば、ファウルで手に当たったかどうかをプレイヤーから問われたとき、相手のことを受け入れた上で自分はこう見たと伝えられるかという、相手の意見も尊重した上に自身がいることを感じさせられました。</p> <p>担当IRからは、負けているチームへのファウルの取り上げ方についてアドバイスを頂くことができました。今後は、ゲームフローをもっと感じながら判定につなげていきたいです。</p>			

審判員	長沼大平(山梨)・猪股祐介(千葉)・倉持雄一(栃木)	報告者	倉持雄一
カード	大宮東高校(埼玉) vs 湘南工科大附属高校(神奈川)		
コート	Cコート	主任	眞榮喜工 氏
<p>PGCでは、以下の内容についてクルーで擦り合わせを行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スカウティングから、平均身長に差があるため、リバウンドにフォーカスしてゲームを進めていく。 ・プレイコーリングに関しては、オヴィアスコールを徹底し、プレイコーリング・ガイドラインに沿ってイリーガルなコンタクトや、明らかなバイオレーションを取り上げテンポセットを行いながら基準をつくることを大切にしていこう。 ・プライマリーエリアを意識して、自身のエリアで起きることをしっかり判定していこう。 ・ベーシックなメカニクスを丁寧に遂行し判定に生かしていこうとともに、表示物にも気を配っていこう。 <p>実際のゲームは、大宮東高校が3Pでリードし、湘南工科大附属高校は我慢の時間帯でありました。湘南工科大附属高校は少しストレスを抱える雰囲気でもゲームは流れていき、前半の時間でプレイヤーのインテンシティが高まると考え、キーとなる両プレイヤー、マッチアップをつかまえ、声掛けをしながら、必要に応じてコミュニケーションを続け、プレイヤー管理に努めました。</p> <p>ゲームの感想としては、前半ファーストコールを吹き、メンタル的にも落ち着いて笛を吹き続けることができました。</p> <p>逆に反省点としては、TFを宣したケースでは、もっている情報をしっかりと共有できれば、スムーズな処置ができたかと振り返ります。また、ゲーム中にはCCMを発揮しなければならぬ場面が多々ありましたが、自信の無さや経験不足により、必要な場面で存在感を示せなかったと感じる場面がありました。今後はCCMをさらに意識して審判活動に取り組んでいきたいです。</p> <p>最後に、今回の派遣にあたり、準備よりご尽力いただきました。地元埼玉県の皆様、派遣に際しご配慮いただきました梶審判長はじめ栃木県の皆様へ心から感謝申し上げます。ご報告いたします。</p>			

審判員	中嶋清貴(山梨)・佐藤賢(茨城)・藤木千仁(栃木)	報告者	藤木千仁
カード	都立駒場高校(東京) vs 桐生第一高校(群馬)		
コート	Cコート	主任	茂泉圭治 氏
<p>今大会は自身初めての関東大会でした。これまでも県外で審判させていただく機会が少ない中、初めてお会いする方とたくさん交流することができ、大変貴重な時間を過ごさせていただきました。</p> <p>PGCではクルーワークを意識してスムーズにゲームを進めていこうと話が出ました。プライマリーテイク、クロック管理、ポジショニングの調整など3人で協力してカバーし合うことを大切にしていこうと申し合わせました。</p> <p>実際にゲームでは、お互いアウトサイドショットを放つことが多いチームでペイントアタックが少なかったため、笛を入れる場面が非常に少ないゲームとなりました。しかし、笛を入れる場面が少なかったからこそ、ここぞといった場面でいかに笛を入れられるかが問われるようなゲームでした。</p> <p>担当IRにご指摘いただいた反省点は、要所で笛を入れるために、いかにそれまで充実した準備をしていたかどうかという点でした。自身で情報を集め、予測し、ポジショニングする(見に行く)、このような判定をするまでの過程を固めておかなければ、正しい判定、かつ納得してもらえそうな判定を下すことは難しいのだと感じさせられました。</p> <p>今後の活動では、判定するまでの準備を怠らずしっかりと整えて良いポジションで笛を鳴らせるよう、課題を克服していきたいと思っています。</p> <p>今大会の派遣に際しまして、ご尽力いただいた梶審判委員長をはじめとする県内審判員の皆様、大会運営等でお世話になりました埼玉県バスケットボール協会の皆様へ御礼を申し上げます。ご報告させていただきます。</p>			

6月2日(日)

審判員	加納康平(神奈川)・武井晋平(栃木)・後藤貴哉(東京)	報告者	武井晋平
カード	正智深谷高校(埼玉) vs 土浦日大高校(茨城)		
コート	Bコート	主任	土屋友由 氏
<p>PGCでは、加納さんのレクチャーにもあったプライマリーの尊重について話が出ました。判定は個人の持ちもの、個性であるということです。例えば、バスケの見どころの一つとしては、ブロックショットです。ファウルなのかノーファウルなのか、しっかりと見極めをもって判定することが大切だと思います。また、一ゲームを通して、同じようなものを同じように吹くところでは、フリースローのバイオレーションなども試合の序盤に両チームに示せたことは、終盤に向けた意味でメッセージとして伝わっていたのではないかと感じました。</p> <p>担当IRによると、例えばセンターサイドからのドライブやプロテクトシューターについても、自身が取り上げたあと、加納さんも同じものを取り上げている場面からクルーで同じものを取り上げていてクルーの判定基準の統一をすごく感じる事ができたとのことでした。</p> <p>地元のチームと強豪校との対戦で延長戦までもつれる試合となり、自分のモチベーションや今後の活動について大変刺激を受けることのできた試合でした。また、TLG担当の加納さんと一緒に来て、大変勉強になりました。次のゲームに向けて、一つ一つ課題を持って挑戦していきたいと強く感じる大会となりました。</p> <p>最後に、今回の派遣にあたり、準備よりご尽力いただきました。地元埼玉県の皆様、派遣に際しご配慮いただきました梶審判長はじめ栃木県の皆様へ心から感謝申し上げます。ご報告いたします。</p>			